

取扱説明書

魚種別ウロコ取り具のご購入ありがとうございます。

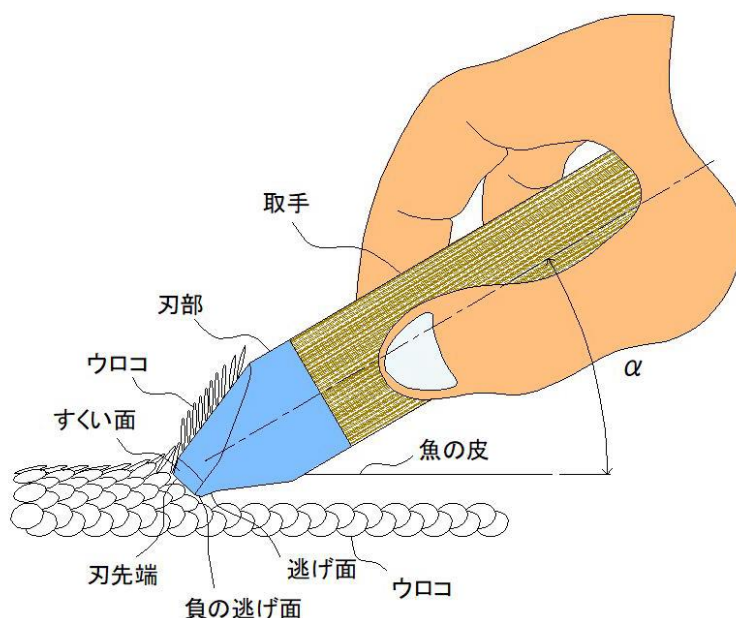
各TYPEのウロコ取り具がどの魚に流用出来るのかは「魚種別適合性一覧表」としてホームページで紹介しています。流用可能な魚種を是非ご確認ください。性能未確認の魚種もありますが順次テストして都度更新していきたいと思っております。

なお、このウロコ取り具は「釣り魚専用」です。よく魚屋さんで魚を並べて売っている場合がありますが、午前中であれば大丈夫と思いますが、朝から夕方まで並べてあったような魚は鮮度が高くとも鱗が乾いてしまっています。そのような鱗が乾いてしまっている状態では十分な性能は出ませんのでご注意ください。魚屋さんの魚であってもパックに入れられてラップされていて乾いていない鱗であれば大丈夫のようです。

YOUTUBEなどで、「鱗取りの〇年度 第10選」とか紹介されているものがありますが、魚屋さんで並べられて乾燥した魚を買ってきてテストしていると思える動画があります。そういった条件下では、このウロコ取り具は性能が出ませんので予めご了承願います。

なお、ウロコ取り具の取っ手と魚体角度 α は45度程度まで立てて使用ください。寝かして使うと性能が発揮しにくいのでご注意ください。理由は刃先に十分な圧が掛からないため快適に鱗が取れないからです。

最後に、魚のヒレで怪我しないように、胸ヒレや腹ヒレは最初にハサミで切り取るか、もう一方の手でヒレを裏返して手で押さえた状態にするなど安全に作業をしてください。



【TYPE鯉&石鯛】

石鯛の鱗は強固で接合も強いです。しかも鱗形状が細長いということが他の魚種と全く違った鱗形状をしています。このことが、鱗が取れにくい要因なのかもです。

一方、ヒラメは鱗と皮膚との接合は強いのですが鱗が柔らかく、鱗を起こそうとすると裏返りやすいので鱗の裏返り対策が必要でした。

それぞれの課題に対して鱗を閉じ込めるポケットが共通して絶大な効果を発揮することを偶然発見したためそれを具現化しています。

TYPE鯉&石鯛に限っては、刃先形状は下図のようになっており、通常は「[後ろの刃\(左図\)](#)」を主体に鱗をポケットに閉じ込めつつ鱗を剥いていきます。付加的に「[先端側の刃\(右図\)](#)」でも魚のヒレ周りや細かい部分の仕上げで活用することが出来ます。

万が一、使用中にポケットに鱗が詰まる場合には、カップに水を汲んでおき定期的に浸して鱗を脱落させてください。

TYPE ヒラメ・石鯛の二枚刃形状

